

令和元年11月15日
(2019年)

保護者のみなさまへ

吹田市立千里丘中学校
校長 浦田 太

令和元年度 全国学力・学習状況調査の分析について

晩秋の候、保護者のみなさま方に益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校教育活動にご理解、ご支援いただき厚くお礼申し上げます。

さて、本年度、3年生を対象として「令和元年度 全国学力・学習状況調査」を実施し個人ごとに結果を返却いたしました。また、吹田市でも、今回の調査結果の概要を吹田市ホームページで公表しております。この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学、英語に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取組を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

◇国語

【概要】本校の生徒の平均正答率は、全ての設問において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果でした。

【話すこと・聞くこと】平均正答率は全国値を上回っており、特に「話し合いの話題や方向をとらえる」という項目については、正答率が高くなっています。しかし「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」の項目では無回答率が高く課題が残ります。

【書くこと】平均正答率は全国値を上回ります。特に「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」という項目については、全国値と比べ、正答率が高くなっています。しかし同時に無回答率が高く、課題が残ります。

【読むこと】平均正答率は全国値を上回っており、文章全体の内容をしっかり読み取れています。特に、「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを持つ」「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」という項目では、全国値を大きく上回っています。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】平均正答率は全国値を上回っており、「封筒の書き方を理解して書く」という項目では全国値を大きく上回っています。

【今後の指導改善点】読む能力に関しては、無回答率も低く、文章の展開を理解して情報を整理する能力があります。書く能力に関しては文章を推敲する能力があります。言語についての知識・理解・技能に関して、全国平均は上回るものの、正答率は低く、6割強の生徒しか正答できていない。今後は指導していく中で実際に活動させてより多くの生徒への技能の定着を目指します。

◇数学（『知識』に関する問題）

【概要】本校の生徒の平均正答率は、全ての設問において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果でした。しかし、中には正答率が低いところもあり、課題もあります。

【数と式】連立方程式については、概ね理解できています。この領域において平均正答率は、全国値を上回っています。「数の集合と四則計算の可能性」問題では、全国値を上回っているが、正答率は低い。

【図形】平行移動の意味、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件、反例の意味の平均正答率は、全国値を上回り、概ね理解できています。他の領域と比べるとよく理解している。

【関数】反比例の基本的な内容の平均正答率は、全国値を上回り、概ね理解できていますが、正答率は低い。

【資料の活用】簡単な確率を求める問題、資料から最頻値を求める問題は全国値を上回っており、概ね理解できていますが、正答率については若干低い。

◇数学（『活用』に関する問題）

【概要】本校の生徒の平均正答率は、全ての設問において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果でした。

【数と式】全体的には全国値を上回っており、概ね理解できています。「与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉える」「事柄が成り立つ理由を説明する」問題では正答率が若干低い。

【図形】どの問題も全国値を上回っており概ねよくできていますが、「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する」問題では無回答率も高く、正答率もほかの問題と比べると低い。

【関数】全体的には全国値を上回っているが、「事象に即して解釈する」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」問題は他の領域と比べると正答率はかなり低く、課題が残る。

【資料の活用】どの問題も全国値を上回っており概ねよくできていますが、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」問題は正答率が低い。

【今後の指導改善点】正答率、無解答率共に全国平均と同じ傾向があります。数学的・論理的に考える力、応用力がやや足りないように感じられます。現在の授業に加えて、よりじっくりと考えて、自分の考えを言葉にして数学的に説明する時間や教科書・問題集以外の問題をする時間をとる必要があります。

◇英語（『聞くこと』に関する問題）

【概要】本校の生徒の平均正答率は、ほとんどの設問において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果でした。しかし、中には正答率が低いところもあり課題が残ります。

短い英語の文章は正答率が高い。しかし、長い説明文や会話文など、更に詳細な情報を伝える英語になると正答率が低くなる。特に、「英語のスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える」という問題では、府や全国の平均正答率を下回る。

◇英語（『読むこと』に関する問題）

【概要】本校の生徒の平均正答率は、全ての設問において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果でした。しかし、中には正答率が低いところもあり課題が残ります。

文章を理解する力は、府や全国の平均を上回っている。しかし、文章の内容に対して、自分自身の考えをまとめたり、文章にする力が不足しているので、その改善が今後の課題である。

◇英語（『書くこと』に関する問題）

【概要】本校の生徒の平均正答率は、全ての設問において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果でした。しかし、中には正答率が低いところもあり課題が残ります。

選択肢の問題や形式に当てはめるような問題は、正答率が高い。しかし、自分の力で自分自身の考えを表現する力に課題が残る。

◇英語（『話すこと』に関する問題）

【概要】本校の生徒の平均正答率は、全ての設問において、府や全国の平均正答率を上回っており、良好な結果でした。

【今後の指導改善点】正答率、無解答率共に全国平均と同じ傾向がある。基礎的な問題や知識に関する問題は、多くの生徒が理解をしているが、応用的な問題や表現力（特に「書くこと」）に課題があると感じる。今日の出来事（日記）を3文程度書かせるなどの活動を、日々の学習として取り入れていくことも検討している。また、現在、授業中にアクティビティやペアワークなどを通して、英語で「話すこと」を取り入れているが、ほとんどの生徒が楽しそうに英語でコミュニケーションをとろうとしている。しかし、「即興性」という面ではまだまだ課題があるため、授業者もそれらを意識した授業作りが必要である。

2. 生徒質問紙に関する調査の傾向

○肯定的回答 ×否定的回答 ↑↓→昨年との比較 ☆良好な結果 ★課題あり
※ 全国(公立)値と大阪(公立)値を、千里丘中と差がある項目については記載しています。記載のない項目については、同等程度の数値となりました。

(1) 自分自身のことについて

- | | | | |
|--------------------------|-------------|----------|----------|
| ☆「学校の規則を守る」 | ○99% (→) | | |
| ☆「いじめはどんな理由があってもいけない」 | ○95% (↓1P) | | |
| ☆「人の役に立つ人間になりたい」 | ○90% (↓4P) | | |
| ☆「将来の夢や目標を持っている」 | ○67% (↓4P) | | |
| ☆「自分にはよいところがある」 | ○78% (↓8P) | 全国 (74%) | 大阪 (68%) |
| ☆「部活動に参加している」 | ○86% (↓6P) | | |
| ☆「先生はあなたのよいところを認めてくれている」 | ○72% (↓16P) | 全国 (82%) | 大阪 (78%) |

規律を守ろうとする態度や公共心を持っているのが例年同様良いところ。自己肯定感も高く、自分自身のことを大事にしている生徒が多いです。ただ、割合的には微減しているので、引き続き小中一貫したキャリア教育を通じて、将来への展望を持たせたいと考えています。

(2) 家庭生活について

- | | |
|----------------|----------|
| ☆「毎日同じ時刻に寝ている」 | ○77% (→) |
|----------------|----------|

- ☆「毎日同じ時刻に起きている」 ○ 90% (→)
- ☆「朝食を毎日食べている」 ○ 94% (↑ 1P)
- ☆「普段1日当たりの勉強時間」 ○ 2時間以上 48% (↑ 9P) 全国(35%) 大阪(39%)
- ☆★「家で自分から計画的に勉強する」 ○ している・ややしている 58%
× 全くしない 12%
- ☆「家の人と学校での話をする」 ○ 76% (↑ 5P) 全国(76%) 大阪(83%)

概ね規則正しい生活を送っています。ただし、就寝時間にばらつきがあり、放課後の習い事等に関係していると考えています。家での勉強時間に関する質問では、実施時間と計画的に勉強することに関する質問の回答にややずれがあり、与えられた課題をこなしているという部分に、改善点があると分析されます。引き続き、自主的に計画を立て、学習に取り組む姿勢の大切さを説きながら主体的に学ぶ姿勢を培っていきます。

(3) 地域・社会等について

- ☆「地域や社会のために何をすべきかを考える」 × 何をすべきか考えない 63% (↓ 2P)
- ☆「地域行事の参加」 × 参加しない 60% (↓ 9P)
- ★「1日の読書時間」 × 全くしない 33% (↑ 3P)
○ 30分以上 22% (↓ 3P)

地域や社会に関する質問では、社会での出来事に関する興味関心の部分で、否定的な意見が微減し改善傾向にあります。また、地域行事への参加について否定的な意見が減少し、学校外でも貢献できる生徒が増えています。引き続き身近な社会である地域に多様な関わりをもてるよう啓発を行っていきます。読書に関する質問では、読書を全くしない割合は微増しています。図書室の活性化の必要性を感じております。

(4) 調査教科について (肯定的回答 単位%)

	好き	大切	よくわかる	社会で役立つ	記述問題への取り組み
数学	61	82	83	71	97
国語	53	86	64	76	98
英語	62	90	75	89	×

数学、国語ともに苦手意識はあるようですが、記述問題には高い割合でしっかり取り組む姿勢を持っています。どの教科も社会で役に立つと考えている生徒が多く、特に英語に関しては将来の必要性を大きく感じ取り前向きに取り組もうという意識が見てとれます。

今後も引き続き「できる、わかった」という達成感が持てる授業づくりに取り組み、少人数指導の利点なども生かしながら、指導方法の工夫を続けていきます。